

二對スル健康診断並檢査要領ヲ規定シ之カ
 實施ヲ廣東博愛會ヲシテ擔當セシム之ト共
 二本通牒ノ要旨ヲ別紙第六ノ如ク抜粹ニ隸
 下一般ニ通報シ軍内一般ニ一層ノ注意ヲ喚
 起セシム

尚一方之カ主旨徹底ノ爲市内邦人接客業婦
 ヲ憲兵隊講堂ニ集メ佐藤軍部員ヨリ花柳病
 豫防ニ就キ憲兵隊將校ヨリ取締規定ニ就キ
 夫々講話ヲ行ハシメタリ

先般南支防疫給水部ノ實施スル廣東市内ノ

衛生巡察成績ニ鑑ミ別紙第七ノ如ク各官憲
ニ通牒シ市内飲食店ノ衛生的指導監督ニ就
キ要望セリ

五 第四師團軍醫部長ヨリ申請ニ係ル同師團
衛生隊ノ施療實施ニ関スル件申請ノ通認可

又

六 十七日 總衛甲第五八號ヲ以テ診療能力ノ
團體的向上ニ就テノ答申統一案ノ送附アリ
又ルヲ以テ南支醫第八七七號ヲ以テ夫々處
置セリ

ハ十九日總衛乙第四五號ヲ以テ野戰衛生長官
部ヨリ公務ニ基因セル罹患狀況ヲ軍隊手牒
ニ記載シ件ニ關シ通牒アリタルヲ以テ其旨
軍内一般ニ通報ス

三 衛生機關ノ狀況

ハ十三日 波集作命丁第三五六號ヲ以テ藤田
支隊古井附近討伐間左記部隊長々下記部隊
ニ該支隊ニ配屬セシメラル、コトニナリタ
ルヲ以テ別紙第八ノ如ク各部隊長ニ指示ス

左 記

第七野戰豫備病院長一野戰豫備病院第二班部

(在江門)

第七患者輸送部長一患者輸送班二班
南支那防疫給水部長一防疫給水班二班

之波集站命第六二八號ヲ以テ今次兵力移動ニ

伴フ飯田兵團主力ノ黃埔上陸ヨリ廣東宿營

迄ノ期間該兵團ノ防疫給水ハ南支那防疫給

水部ノ一部ヲシテ擔任セシメラル

又第十八師團ノ一支部隊深圳附近討伐間該支部

ニ對スル補給點ハ寶安卜定メラル第七患者

輸送部長ハ寶安黃埔間ノ患者輸送ニ任セシ

メラル

十六日 波集作命甲第四。二號ヲ以テ熱地
醫學研究部ノ編成ハ解カシ編成答部隊ハ各
々原所屬ニ復歸セシメラシ熱地醫學研究部
長ノ業務ハ南支那防疫給水部長ヲシテ引繼
カシメラル

五 波集站命第六三六號ニ基キ飯田兵團ノ患者
収療ノ爲別紙第九ノ如ク指示シ野戰豫備病
院第二十四班約ニ分ク一缺ヲ佛山ニ開設セ
シム

6. 十七日 波集站命第六三七號ヲ以テ第十防疫給水部ハ別紙第十一ノ指示ニ基キ其一ノ部ヲ後藤支隊ニ殘置シ主力ハ廣東ニ復歸シ南支那防疫給水部ト協同シ河南地區部隊ノ防疫給水業務ニ服セシメラル

7. 旬末兵站衛生機關ノ配置附圖ノ如シ

四 患者ニ関スル事項

1. 旬間兵站衛生機關ニ於ケル収容新患及旬末現在患者ノ狀況ハ附表第一ノ如シ
2. 八月一旬ニ於ケル軍内入院患者ノ狀況ハ附

表第二ノ如シ

3. 句間判明セル戦死傷ノ状況左ノ如シ

考備	一、アラビア数字ハ將校ノ別記トス					
計		四	四	四	二	二
海南島派遣隊			四	八	一	二
上陸田支隊		二	一	二	二	二
發生部隊						
戦死						
戦傷						
計						
摘要						

4. 本句(八月二十日第三六回)還送患者ノ内譯

左ノ如シ

廣	發送地	戦	傷	戦	病	計	摘	要
東			五	一	八	九	二	九
							四	

0090

五防疫給防疫給水ノ状況

八防疫

〇旬間コレラ患者發生ノ状況

廣東市附近ノ旬間眞性コレラ發生ノ状況ハ

左ノ如ク前旬ニ比シ激減シ漸ク終熄ニ近ツ

キツ、アル狀況ナリ

新患 六名 (前旬九名)

死亡 二名 (前旬五名)

計	五	八
一五	一〇	一三
三〇	二二	二二
三二	二二	二二
三七	二二	二二

詳細ハ別紙第一二防疫報第四二號記載ノ如ク

シ
 (四)ゴレヲ防疫處置ノ概要

(イ)廣東ゴレヲ防疫委員會ノ作業概要別紙第一

二防疫委員會會報第一九回ノ如シ

(ロ)南支那防疫給水部第十一第十二防疫給水部

ノ檢疫班防疫班ノ業務ハ前旬ニ大差ナシ

(ハ)其他主要實施事項

南支那防疫給水部

病原檢索實施總數

一九七四八件

六

マラリア検査実施人員数 二〇〇八名

検疫消毒

消毒部隊回箇

延坪数 一一八六坪

尚赤痢発生部隊菌検索 爲烟上見習士官

以下ヲ八月十三日派遣ス

第十一防疫給水部

病原検索實施總數

四六三件

防疫作候班ノ實施セル衛生調査件數一〇件

第十二防疫給水部

野砲兵第百回聯隊ノバラフスノ防疫指

導援助 細菌檢索ヲ實施ス

2. 防疫給水ニ關スル事項

(1) 南支那防疫給水部

藤田支隊ノ古井附近作戰開始ニ當リ防疫給

水班ニ箇ヲ編成同支隊ニ配屬ノ爲八月十三

日出動戦闘ニ參加ス

飯田兵團ノ廣東附近移動ニ伴ヒ八月十三日

以降黃埔上陸ヨリ廣東宿營間ノ防疫給水ニ

任ス

(2) 第十一防疫給水部

深圳附近ノ作戰ニ當リ井上少佐以下六七名
 馱馬二三頭ヲ以テスル馱馬編成防疫給水班
 三箇ヲ有村部隊(33B)ニ配屬戦闘ニ参加ス
 (3)第十二防疫給水部ハ花縣警備隊ノ増強ニ伴
 ヒ一部ヲ鴉湖ニ前進セシム
 (4)第十七防疫給水部ノ主力ハ飯田兵團ノ移動
 ニ伴ヒ主力ヲ佛山ニ一部ヲ三水九江門ニ
 進出セシム

(5)海南島馬淵支隊配屬中ノ第十七防疫給水部
 ノ一部ハ目下部隊ノ警備地區變更ニ伴ヒ其

ノ配備變更ヲ實施中

(6) 其ノ他防疫給水業務實施ノ景況ハ前向ニ大
差ナシ

六、衛生材料ニ關スル事項

ノ豫テ野戰衛生材料廠ニ於テ調製中ナリシ白
川撒布劑、汗疹劑及コレラ豫防接種液ヲ
豫防接種液ヲ隸下一般ニ交付ス

白川撒布劑ノ配布區分別紙第一三ノ如シ

5090 2. 八月十二日衛生材料ノ節約ニ關シ附録第一

ノ如ク印刷物ヲ調製シ各部隊ニ配布ス

八月十六日南支那防疫給水部ニ對シ別紙第一
一四ノ通初度備付トシテ器械ヲ交付ス
又、旬末ニ於ケル豫備衛生材料ノ狀況附表第三
ノ如シ

別紙第一

南支那防疫給水部轉科衛生兵教育査閲時
 軍軍醫部長所見

昭和十四年八月十四日

現下酷暑ノ候凡ソル萬障ヲ排濟シ本日轉科衛生兵
 ノ教育ヲ終了シ軍ニ新威容ヲ附加セラレタル南
 支那防疫給水部長以下其ノ勞ヲ多トシ教育諸
 官各位ノ努力ニ對シ本職ノ多謝措ク能ハサルト
 共ニ我衛生部ノ爲誠ニ幸慶ノ至リニ堪ラス茲ニ其ノ
 祝意ヲ表シ併セラテ將來ノ爲ニ三ノ所見ヲ附加シ
 諸官ノ參考ニ資セント欲ス

一 査閲官ノ所見ニ同意ス

- 二 衛生部ノ教育ハ特ニ理論ト事實トヲ綜合シテ教育スルニ非ザレバ其ノ成果ヲ期シ難シ然ルニ教官助教ニ於テ教フル所ノ日々ノ課目ニ就キ十分會同研究ヲ行フニ非ザレバ之ヲ實地教育ニ移スコト能ハス將來ニ於ケル補習教育上注意ヲ望ム
- 三 教程類ノ記載事項ハ皆根幹ヲナスモノナリ然ル後之ヲ應用ニ移スヲ可トセン
- 本頁ノ如キ動モスレバ其ノ根幹ヲ忘却セルモノアリ將來ノ注意ヲ望ム
- 四 教育ハ他兵科ト異ナル學力アル衛生兵ニ對シテハ教授法ノ如何ニ依ル將來其ノ方法ニ就キ一

段ノ考慮ヲ望ム

五 助教トシテノ指導及指揮能力ハ尙一層奮勵ノ
上其ノ位置ヲ取カシメザル如ク修養ヲ望ム

六 細部ニ関シテハ參考ノ爲ニ授ス

昭和十四年八月十四日

南支派遣軍軍醫部長

森島侃郎

勅紙第百二

南支醫第八五九號

南支防疫給水部長ニ與フル指示

八月十日 廣東

一 貴官ハ速ニ防疫班ヲ江門藤田支隊ニ派遣シ赤

痢發生部隊ノ菌檢索ヲ實施セシムヘシ

二 菌檢索ハ發生中隊及之ト密接ナル關係ヲ有

セシモノノ範圍トシ一回限リ實施スルモノトス

三 細部ニ関シテハ江門藤田支隊本部附醫官ト

協議實施スヘシ

南支派遣軍軍醫部長 森島侃一郎

下達法印刷交付

支那事変歸還人員マラリア原蟲

保有者、同疑似要治療者調査表

一 調査部隊名

二 調査年月日

三 調査成績

イ 調査人員數

ロ 原蟲保有者數 (調査人員ニ對スル百分率)

ハ 原蟲種別員表

ニ 原蟲陰性ナル要治療者數

(以上別紙第一)

ホ 原蟲保有者及同陰性ニシテ要治療者ノ感染地年月
表 (別紙第二)

ハ原蟲保有者及同陰性ニシテ要治療者ノ原籍地別調

査表

(別紙第三)

四 治療實施ノ概況及其成果

襄ニ南支醫第七九七號ヲ以テ報告セシ如ク原蟲保有者並疑似要治療者ニ對シテハ治療ノ確實ヲ圖ラシムルト共ニ留守部隊又ハ編成担任部隊ト密接連絡セシメテ後療法ノ徹底ヲ期シツツアリ

五 其ノ他參考トナルヘキ事項

特記事項ナシ

2190

考	備						
		山梨縣	千葉縣	"	"	"	"
		北多摩郡	山武郡	御調郡	世羅郡	尾道市	御調郡
		"	三日熱	"	"	"	"
		"	"	"	"	"	"
		"	不詳	"	"	"	一月
		"	"	"	"	"	廣東官蜜壩
		"	江門	"	九江	"	"
		"	"	"	"	"	"
		判明	發病				
		又	結果				

別紙第四

南支参通丁第一〇三號

軍慰安所以外接客業者取締ニ関スル件通牒

昭和十四年八月十三日 南支洲遣軍参謀長土橋勇逸

首題件ニ関シ別紙要領依リ実施セシメ度依命通牒ス

別紙

軍慰安所以外、接客業者、取締要領

第一 軍慰安所以外、邦人接客業者ニ對スル取締
本取締ハ軍憲兵隊及日本總領事館之ヲ實施シ軍衛生機
関之ニ協力ス

一 健康診断及檢査ノ實施

一 接客業婦(藝妓、酌婦、女給)ニ對シ毎月一回健康診断ヲ藝
妓、酌婦ニ對シ每周一回檢査ヲ實施ス

二 健康診断及檢査ハ所票ニ應ジ衛生機關之ヲ援助ス

二 有疾者ノ處置

患者ハ一切接客ヲ禁止シ其實施ヲ嚴ニ取締リ禁ヲ犯スモノアル
トキハ營業停止等嚴重ニ處分スルコトアリ

三 豫防設備

枕席ヲ用意スル營業者ヲシテ心ス豫防設備ヲ完備セシム
四 必要ト認ムルトキハ總領事館所管區域ニ對シ單ニ於テ直

接客業婦ノ健康状態及衛生施設ヲ検査ス

五 女給ノ賣淫行為ハ之ヲ禁止スルト共ニ之力取締ヲ勵行シ禁シ

犯スモノアルトキハ營業停止等嚴重ニ處分ス

六 報告 通報

一 總領事館ハ所管区域内ノ接客業婦ノ人名ハ藝名、本名共

ニハ移動ノ都度軍憲兵隊ニ軍憲兵隊ハ軍司令部及關係

各部隊ニ報告通報ス

二 檢査成績ハ檢査擔任者ヨリ別ニ定ムル所ニ依リ軍憲兵隊ニ

軍憲兵隊ハ軍司令部及關係各部隊ニ報告通報ス

三 總領事館ハ所管区域内ノ女給取締状況ヲ毎月一四軍憲兵

隊ニ軍憲兵隊ハ軍司令部及關係各部隊ニ定期報告ス

四 軍ニ於テ實施セル檢査ノ所見ハ關係機關ニ通報ス

第一 軍特殊慰安所以外ノ支那接客業者ニ對スル取締

本取締關シ軍特務機關ハ支那側諸機關ヲ指導シテ之力實行ヲ容易

ナラシメ軍憲兵隊ハ支那側諸機關及日本人ノ實行ヲ取締ルモノトス

- 一、軍特殊慰安所従業婦以外ノ支那娼婦ハ之ヲ軍隊宿營地ヨリ遠隔セル地點ニ於テ一地區ハ數地ニ集結シ公娼トシテ適宜ノ方法ニ依リ定期檢査ヲ更スル如ク指導ス
- 軍人軍屬ノ右地域出入ヲ許サス
- 二、日本人ノ雇民船内等ニ出入シ水上接客業者ニ接スルコトヲ許サス
- 三、前二項ノ取締状況ハ毎月一回軍憲兵隊ヨリ軍司令部ニ定期報告スルモノトス
- 以上六主トシテ廣東市内及其附近ノ接客業者ニ対スル取締ナルモ各兵團(隊)ハ本締要領ニ基キ自己警備区内ノ飲食店カフエー等ヲ取締リ毎月一回其状況ヲ軍司令部ニ定期報告ス

別紙第五

南支隊西第八四五號

市内接客業者健康診断

実施ニ関スル件通牒

昭和十四年八月十六日 南支隊遣軍軍醫部長

廣東博愛會醫函院長殿

別紙南支隊参通丁第一〇三號第一ノニ基ク

廣東市内邦人接客業者ニ對スル健康診断及

検徴ハ自今左記ノ要領ニ依リ貴院ニテ之カ実施

ヲ相當相成度

左記

一 健康診断ハ毎月一回検徴ハ毎週一回実施ス

ルモノトス

二健康診断ニ慢性傳染病ノ早期發見ニ重点ヲ相司シ尿検査要スレハ喀痰検査及血液検査(徴毒反應)ヲ実施スルモノトス

三有疾者ハ努力テ之ヲ收容入院治療トスルモノトス

四検査成績ハ別紙様式ニ依リ週末統合ノ上

本職及軍憲兵隊領事館ニ提出スルモノトス
検査所見上取締等ニ関スル参考意見アラハ附記スルモノトス

五検査要旨官ノ氏名検査實施目割ハ本職宛豫メ通報スヘシ

六、実施ノ細部ニ関シテハ直接憲兵隊領事館
警察寮ト連絡協定スルモノトス
追而実施ニ関シ勤務力收容力等ニツキ意見
アラハ速ニ申出ラレ度申添フ

別紙第六

通 報

昭和十四年八月十七日
於 廣 束

一 軍ハ最近軍慰安所以外ノ接客業者取締ニ関スル
事項ヲ定メ南支参通第一。三號關係各部隊ニ通牒
セリ其中直接軍人軍屬ニ関スル事項左ノ如シ
ハ 女給ノ賣淫行為ハ之ヲ禁止スルト共ニ之ヲ取締シ
勵行シ禁ヲ犯スモノアルトキハ營業禁止等嚴重ニ
處分ス

又 軍特種慰安所従業員以外ノ支那娼婦ハ之ヲ
其ノ区域内ニ集結シ軍人軍屬ノ之等ニ接スルコ
ト嚴禁ス就中蛋民船等ニ出入シ水上接客

業婦ニ接スルコトハ危険ヲ伴フヲ以テ日本人全
般ニ對シ之ヲ嚴禁ス

右ハ畢竟軍人軍屬ノ花柳病豫防ノ實績ヲ向
上セシカ爲メ引イテ戦力ノ低下ヲ防止シテ下スル意圖
ナルヲ以テ各部隊ハ右ノ規則ヲ嚴守セシムル如ク指導
相成度又之ト併行シテ精神教育ヲ徹底セシムルト共
ニ花柳病豫防方法ノ實行ヲ必ス嚴守セシムル如ク
指導シ函々相俟ツテ日下軍ノ最モ恥辱トスル花柳病
多發ヲ防止スルノミナラス更ニ之カ撲滅ヲ期シ度ヲ以テ以
上ノ主旨ヲ具現スル如ク各隊ニ於テ特ニ御努力相
成度

別紙第七
南支醫第八六六號

市内飲食店衛生巡視ニ關スル件通牒
昭和十四年八月十五日
南支派遣軍軍醫部長

今般市内飲食店ニ對シ軍ニ於テ衛生巡察ヲ實施シタ
ル成績左記如クニ付關係者ヲシテ之カ指導監督ニ
努メタメ以テ軍自衛ニ協力方配慮相成度

近テ別紙附表中△ヲ附シタルハ將來指導上特ニ留
意スルキモノト被存ニ付可然訓諭方相成度

市内飲食店衛生巡察ノ件

0627
八月二日中央憲兵分隊長少佐ノ協力ノ下ニ田
中部隊防疫作候班一茲檢疫班回ヲ以テ實施シタル
衛生巡察ノ附見ノ概要左如シ

一 巡察セシ飲食店数 茲其区域
 不飲食店数 合計一四一軒
 口 區 域

愛群附近 一 軒
 中央慰安所附近 三 軒
 惠愛中路附近 七 軒
 海軍警備地區 一 軒

一 清潔度ニ就テ
 飲食店其他ノ清潔度ヲ上中下ハ三ニ分テ經營者
 國人別ニ調査スル左表、如ク中國人經營ノモノハス
 シモ日本人經營ノモノニ少カルト云ヒ難シ

國籍別	清潔度			計
	上	中	下	
日本人	一六	七三	一一	一〇〇
台灣人		一一		一一

計	外人	支那人	本 台 人	日 本 人		國 籍 別	
				甲	乙	丙	下
四六	一	三	三	三九	五	一	計
七		一五	六	五	一		一〇〇
二		七	二	一			一〇〇
四		四					一〇〇
一四		二九	一				一〇〇

三、指導ニ依ル將來性
 今次行ヒタル衛生
 衛生指導ニ置キ店主
 以下ノ此ニ對スル態度
 判定シテ假ニ甲乙丙丁ノ
 成績左ノ如ク

計	外人	支 那 人
九八		一四
二四		一三
一四		二九

四意見

瘡厲ノ地廣東ノ防疫指導監督ハ先ツ之等飲食業者衛生思想開發衛生施設ノ改善ニ據ルコト大ナルヲ思フ

本衛生巡察ノ如キハ自今狀況ノ許ス限り概ネニ々月一回ヲ基準トシ實施スルヲ適當トス尚本回實施セル飲食店業者ハ邦人本島人ヲ含ムノ約半数及支那人經營ノモノ若干ニ止マルヲ以テ不日計畫實施シ其缺ヲ補フヲ要ス尚清潔度下ニナルモ及此指導ニ依ル將來性丙以下ノ飲食店尤如シ

清潔度下ナルモノ

飲食店名	場所	飲食店名	場所
共和食堂	廣大路一二番	△洗	漢民北路二四七番
菜々軒	惠慶東路三一二番	△菜々軒食堂	惠慶東路四〇五番

△玉醪春	△花食堂	△洗	△雲軒食堂	目ノ丸	僕乃内	永藤	銀乃星	余氏月	甘口博多
惠愛中略四一號	△左 漢民北路二四七號	達	惠愛東路四〇五號	惠愛中略三八號	惠福東路三八號	△左 三六號	△左 三六號	△左 三五號	惠福東路四〇五號
△孔旺記	△あやや	△浜	△木村屋	△東和食堂	△おの乃食堂	△蘭陽軒	△廣島屋	△藤美食堂	△南陽堂
惠愛中略九〇號	△惠新西略七號	△塩運西略二四號	△惠福東路二四號	△今	△惠福東路六六號	△教育路八二號	△德政南路八二號	△漢民南路二二號	△教育路四六號

別紙第六

軍醫部長指示

一 野戦豫備病院ノ一部ハ戦闘救護班(將校一
下士官一 兵若干)ノ二組トシテ使用スルモノトス
二 携行衛生材料モ亦同療養所所有ノモノヲ
使用ス

三 江門患者療養所施設ハ飯田支隊到着後同
支隊ニ継承スルモノトス

三 防疫給水班ハ將校一 下士官一 兵一〇(内技術員三名ヲ
含ムトシ衛生濾水器一具ヲ携行スルモノトス

別紙第壹

波集站命第六三六號軍醫部長指示

- 一 野戦豫備病院第二十四班ニ配屬ノ看護婦ハ佛山派遣要員ニ充當セサルモノトス
- 二 佛山ニ開設スル病院ノ収容力ハ五〇〇ヲ目途トス
- 三 佛山ヨリノ患者後送ハ除役見込者、特種治療ヲ要スル者及快復ニ長躰日ヲ要スルモノトス
- 四 佛山ニ携行スヘキ衛生材料ハ第二十四班所有量約一〇及齒科材料ノ若干トス

別紙第一。

第十防疫給水部長ニ與フル指示

波集作命甲第三八九號ノ後藤支隊軍隊區分
中第十防疫給水部一部ハ概テ中尉ヲ長トシ
編成裝備ヲ半數以內ニ止メ左記業務遂行ニ支
障ヲ來ササル如クスルモノトス

左記

一 防疫並兵要地誌的諸調査目的貫徹ノ爲メ
防疫乍候、毒物檢知、病原並有毒檢診
班等ハ概テ半部ノ能力ヲ具備セシム
一 淨水並搬水ニ要スル所要ノ人員器材ハ概テ

其ノ能力ヲ半分トスルモ前項人員ト彼此融通
シ得ヘキ場合ヲ又ハ現地ノ狀況等ヲ考慮ノ上
決定スヘキモノトス

三 器材修理ノ爲メノ要員ハ最少限度トス

四 防疫實施ノ爲メニ病原檢索具ヲ使用セシムル
モノトシ防疫給水部特種器材ヲ附スル要ナキモ
防疫用藥物消耗品等ハ可及的一部ニ附與セ
シムルモノトス

別紙第一

防疫報

第四二號

昭和十四年八月二十日

南支派遺軍軍醫部

一管内コレラ情報

(1) 廣東市附近「コレラ」患者發生ノ狀況

八月下旬來疑似患者ノ發生頓ニ減少ヲ來シ漸ク終熄ノ機運到來セントス

八月二十日現在ニ於ケル患者ノ狀況左ノ如シ

疑似患者累計 二三四名

眞性決定 一六三名

内 菌陽性者 一二二名 (保菌者五ヲ含ム) 症狀決定 四一名

死亡 八八名

治愈 六三名

現在患者 一七名

計	關村			順德	黃埔	虎門	佛山	廣東	發生地
	一等兵	一等兵	一等兵	軍夫	軍夫	伍長	一等兵	區分者	患者數
軍屬	下士官	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵	兵
	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	死	治癒	死				治癒	轉歸	摘
	七	四	七				癒	歸	摘
	管野部隊	管野部隊	管野部隊	勝村部隊	順德派遣隊		飯島部隊	船員	佛山西山支隊
									河南西脇部隊
									要

陸軍側
 (2)管内ニ於ケル初發以來ノ累計左ノ如シ
 他病決定 六六名 (現在入院患者一八)
 内眞性 一一名 未定 五名

備考

地方側

計	順德	望國	江門	龍山	龍江	石灣	虎門	佛山	廣東	發生地
六四二 4	一一	六	六	八	二一	八四	一	三三三	一六一 4	患者數
三四二 2	一一	六	一	六	一九	三五	一	一七七	八七 2	死之數
二七七 2	一	一	五	二	二	四九	一	一五六	六二 2	治愈者
一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一一	現在患者
	防疫準備調査	六月下旬以降ノ流行ニ名ハ廣東ニ 掲上セリ	保菌者四ヲ念ム						保菌者三名ヲ念ム	備考

二 管外「コレラ」情報

(1) 中支方面ニ於ケル「コレラ」患者發生狀況左表、如シ

地名	患者果計	軍内	地方別		摘
			邦人	支那人	
漢江	三二五	五	三	三一七	保苗者二名ヲ含ム
漢陽	八	一	一	八	
揚子	三〇	一	一	三〇	保苗者一ヲ含ム
武昌	四〇	一〇	一	三〇	
應城	一五	七	一	八	保苗者五ヲ含ム

(1) アラビア「数字」ハ邦人罹患者ヲ示ス

(2) 蟠岡及管山墟ハ正確ナル数字ヲ調査シ得ス表外トセリ

(3) 既報関村管野部隊ニ發生セル軍内「コレラ」患者ノ感染動機ハ其後田中巖部隊ノ防疫作候班ニヨリ八月五日招宴ニ列席シタル土華村長及土華村有忠ヨリ「コレラ」菌同疑似菌ヲ發見シ更ニ謀畧方面ニツキ調査ヲ續行中ナリ

包市	1	1	1	1	1	1	保留者未
三阪別 <small>(三阪間方平別)</small>	1	1	1	1	1	1	
新規	2	1	1	2	2	2	保留者一ツ含
上海	4	1	1	4	4	4	
小計	42	24	3	39	39	39	
総計	44	26	3	41	41	41	

備考一 総計ハ本表外發生地ノ患者數合計トス

二 防疫報第四節ニテ(ハ)ヲ若干訂正セラレタリ

(2) 中支方面ニ於テ流行セルコレラ患者ヨリ得タル菌株ハ初發以來全部原型菌ナリシニ去ル七月二十五日武昌南方五里界附近三阪駐在部隊ノ患者ヨリ檢出セル菌株ハ中間型ニ決定セリ

(3) 香港其他ニ於ケルコレラ流行状況

(中支、香港、シンガポール情報ヨリ)

(4) 香港市

香港市内「コレラ」患者發生狀況左表ノ如シ

死	新患	区 分
〃	〃	自七月三十日 至八月五日
〃	〃	累 計
〃	〃	〃

(四) マカオ 其他

地 名	自七月二日 至七月八日	自七月九日 至七月十五日	自七月十六日 至七月三十日	小計
マカオ	八	四	六	一八
カルカッタ	〃	〃	八	八
チタゴン	〃	〃	〃	〃
カラチ	〃	〃	〃	〃
				二二

(ハ) 列國盤谷市ニ於ケル本年一月以降ノ新患左ノ如シ

死	新患	月 別
〃	〃	一月
〃	〃	二月
〃	五	三月
八	一	四月
〃	〃	五月
九	二	計